

## 活用方針



### VLP取組概要

#### ■ VLP活用のねらい

- 対面コミュニケーションを苦手とする不登校の生徒の居場所づくり及び学習環境の提供
- VLP利用を通じた情報リテラシー及びメタバースへの理解増進
- 日本語指導での活用

#### ■ 対象生徒・児童

- 適応指導教室の児童・生徒
- 校内の別室登校等の児童・生徒

#### ■ 運営時間

- 不定期

#### ■ 活用方法

- 空間内でのコミュニケーション
- デキタスによる個別学習

## 活動・取組み内容



### 活動・取組み内容

#### 【前期】

- 令和6年度VLPについて  
5月：令和6年度VLPについて学校等へ通知した。
- 児童・生徒へのアカウント配布  
5月：希望があった、適応指導教室の生徒（1名）、小・中学校の児童・生徒（19名）にアカウントを発行した。  
6・7月：学校でVLPを活用した。



#### 【後期】

- 説明会の実施  
9月：教育支援センターのSSWに向けて、VLPの説明を行った。  
9月：特別支援学級（情緒固定）の児童の活用に向けて学校で説明を行った。
- 桃太郎電鉄 教育版 Liteの活用  
12月：導入に向けて申請を行った。  
1月：学校での説明会に向け、準備を進めた。



## 成果/好影響・次年度以降の方針・利用者の声

### 成果/好影響

- 校内別室での活用  
VLP内で一定程度のコミュニケーションをとることができ、人間関係の構築に向けた支援となった。
- SSW向け説明会の実施  
教育支援センターのSSW向けに説明会を実施し、VLPの活用の幅を広げるように努めた。
- 新たなコンテンツの導入  
桃太郎電鉄 教育版の導入に向けて、アカウント等を取得、指導室のPCで動作確認等を行い、学校での説明会に向けて準備を進めていたが、学校端末ではフィルタ機能によって接続できないことが判明した。フィルタ機能の設定に時間を要するため、学校で説明会を実施することはできなかった。



### 次年度以降の方針

- 令和7年度以降はVLPを実施を取り止める。  
狛江市では不登校対策として校内別室支援として、校内別室指導支援員を派遣を行う。令和6年度と同様にVLPの支援員を設置することが困難である。令和6年度のVLPの実績を振り返り、令和7年度以降のVLPの運用に関わる費用対効果の面からも本市での効果的な活用は難しいと判断した。

### 利用者の声



- 久しぶりにVLP内でコミュニケーションをとれてよかった。
- VLP内の空間が昨年度と同じでつまらなかった。
- チャットでふざけて悪口を投稿してしまった。
- VLP内でもっと楽しみたい。



- 初めて空間内に入ったが操作に慣れるまでに時間がかかる。ICTを苦手としている生徒にはVLPの活用は難しい。
- 保護者の理解を得るまでに時間がかかる。
- VLPの運用には、VLPを専門とする支援員が必要である。
- 担任は、VLPを活用することはできない。
- 学校での運用では学校に負担がかかる。
- 継続的な活用には、魅力的な空間づくりが必要である。
- 昨年度はAIドリルのデキタスを活用していたが、今年度は狛江市でAIドリルを導入したため、デキタスの活用は進まなかった。